

学科・資格 国文学科・教授

申請者氏名 紅野 謙介

研究課題		日本近現代文学の生産と受容の研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	日本近現代文学は活字印刷による書物や新聞雑誌などの大量生産が可能な時代の到来とともにあらわれた。時期によってその発行部数も増加し、等し並みに扱うことはできないが、大量に市場に出る商品としての側面を抜きに語る事はできない。さらに文学はいわゆる「コンテンツ」として、演劇や映画などの他の表現媒体に翻訳され、その二次的な翻訳表現を通して、より多くの人々に浸透し、本体へのアクセスを増進するようにもなった。こうした生産と受容、翻訳、変形、そしてさらに再生産という増殖的なサイクルによって、近現代文学は社会の中で大きな市場価値を持つようになった。こうした近代の産業社会と文化の生産・再生産の関係を昨年にひきつづき、歴史的に考察する。
	研究の結果	昨年度より調査と研究を重ねてきた「教育改革」ならびに「入試改革」が国語教育にどのような影響を及ぼすかについて、『国語教育の危機——大学入学共通テストと新学習指導要領』という新書判の本をまとめた。これが予想以上に多くの反響を呼び、SNSを初めとして一般紙誌においても書評や紹介でとりあげられ、さまざまな会合やイベントに招待されることとなった。年度末まででいっても、1月には大妻女子大学で、2月には日本大学国文学会で、3月には神奈川県教職員組合学習会および広島大学教育学部で開催された。このあともしばらくは類似の企画に応じていくことになりそうである。 他方、より専門的な研究としては、アメリカ西海岸の大学間で開催される環太平洋ワークショップに招かれ、研究発表を行ったほか、日本近代文学会の秋季大会でも「中里介山『大菩薩峠』の語りと文体——小説へのディスタンス」を発表した。
	研究の考察・反省	今年度は、前記『国語教育の危機——大学入学共通テストの分析と評価』を出すのが中心となったが、『中里介山研究』もひきつづき進行させている。できれば次年度の後半には出版していきたい。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>【研究発表】 紅野謙介「俳句のコミュニケーション——加藤楸邨と大岡信」（第5回環太平洋ワークショップ、アメリカ・ワシントン大学、2018年6月） 紅野謙介「中里介山『大菩薩峠』の語りと文体——小説へのディスタンス」（日本近代文学会秋季大会、岩手県立大学、2018年10月） 紅野謙介「2年後の教室をイメージする——プレテスト No.2 から新指導要領へ」（日本大学国文学会第17回研究集会、日本大学文理学部、2019年2月）</p> <p>【研究成果物】 紅野謙介「文学が再生するとき ——『早稲田文学増刊 女性号』を読んで」（「すばる」40巻5号、2018年5月、p.p.156-163） 紅野謙介『国語教育の危機——大学入学共通テストと新学習指導要領』（単著、2018年9月、筑摩書房、p.p.7-258）</p>